

## 令和3年度 第1回 就労部会 会議録

日 時 令和3年12月15日（水） 午前10:00～12:00  
場 所 オンライン開催  
出席者 河野部会長、高原副部会長、小田部委員、時田委員、渡辺委員、  
栗城委員、小畑委員  
事務局 杉  
欠席 斉藤委員、佐藤委員

### ○部会内容

河野部会長、高原副部会長所用により出席が遅れたため事務局で進行。冒頭、副会部長は、音声発信が出来ず、受信のみの参加。

### 出席者自己紹介

事務局：令和3年度の東久留米市障害福祉課で実施した就労関連の施策について説明する。

令和3年度障害者雇用促進パネル展については、緊急事態宣言期間中であつたため中止。パネル展の代替として『東久留米市障害者雇用セミナー2021』～東久留米で働くを考える～ を令和3年10月30日に実施した。市民プラザホールで定員は20名。就労支援室さいわい、あおぞら、ポリフォニーのご協力を得て、YouTubeでセミナーの様子を生配信した。当日のテーマにもなった超短時間雇用について栗城委員より簡単に解説願う。

栗城委員：超短時間雇用は、東大の先端研究所、川崎市+ソフトバンクでモデル化した障害者の新しい働き方。川崎市、神戸市、渋谷区で実施されている。積算型で雇用率に入れていきたい考え方。1人で週20時間働くのではなく、20人で1時間ずつ働く。仕事を切り分けて、当事者の特性に合わせた働き方を実現する考え方。東久留米市の障害福祉課には、一般就労と福祉就労の併用を依頼して、B型を使いながら週1回働く利用者を認めてもらった。それから進展がなかったが、商工会の地域人材確保総合支援事業で主に障害をお持ちの方の短時間の雇用に向けて、企業実習等を行ってきた。1社に関してはポリフォニーが実習を指導している。セミナーに来場していた企業から求人の話もいただいている。年内に1度意見交換会を開き、状況を整理したいと考えている。

短時間就労の取り組みを行っている事業所は少なく、多くの企業が手を挙げてくると、今度は働き手がないという事態にもつながってくると考える。さい

わい、ポリフォニーあおぞらの利用者だけではなく、市内の事業所の方や近隣にも声をかけていきたい。1週20時間以外の働き方を摸索してみたい。

他市の状況では練馬区の相談支援事業所経由で清瀬市の方が見学にきていたり、西東京市でも東久留米市と同じような動きで、福祉サービスと一般就労を認める動きがある。隣接エリアでは他市とも連携して、担当者同士が話せる機会をつくりたいと考える。

事務局：就労部会については、初めての開催となるため、各委員が持つ就労や就職、収入等に関する課題について共有し、今後話し合うテーマの設定に繋がればと考える。

栗城委員：就労支援室。金銭の問題や、家族の不調和の問題など、「就労支援の範囲」以外の「生活」に係るサポートもある。

時田委員：ポリフォニーとしては登録40人ほど。ひきこもり・不登校の方や就職に失敗してリスタートされる方がいる。軽度の知的が発見されたり、知的にうつが重なるなど障害が重複しているケースがある。フルタイム就労など無理を重ねて崩れてしまうので、彼らのペースで、障害をオープンにして働き、本人のできる時間で障害年金と最低賃金が保証された状態であれば暮らしていける。短時間雇用をやっている人は5人おり、委託契約を取り交わしている。運転が得意な人は、ゆいまあるでドライバーを2.5時間×2回/週やり、1年位経っている。他には、さいわいセンターで1時間×3回/週の清掃をやっている人、商工会からの紹介で、11月からハイネックスでバリ取りを2時間×2回/週やっている人が2人、カフェで働いている人が1人おられる。会社の安心、本人の安心のために、スタッフと並行して行い、時間をかけてやっていく。横の連携もとっていきたい。不安定な働き手を作るのではなく、障害年金、福祉就労にプラスする形で安定した就労の形を目指したい。

小畑委員：地域のB型作業所では高齢化が進んできた。知的の方の加齢は足腰が弱っていくなど進みが早い。高齢化により作業量が下がり、伴って工賃が下がってしまう。軽度の人ほど障害が重複（精神等）している方が多い。力はあるけれど、毎日通うのは難しい。障害が重複していることによる難しさ、決まった時間に来ることの難しさ、支えていく過程の中でどのように支えていくのか。また、当然親御さんも高齢で、親御さんがなくなった後、本人が地域の中でどのように生活していけばいいか、支えていけばいいのか。8050問題等言われているが、15年ほどで顕著になってくるように考える。就労の支援のサービスの範囲なの

か問われるところが出てくるのではないか、今後の各事業の共通の課題になると考える。

渡辺委員：就労支援室さいわいは、170名の方が登録しており、登録者の8割は就労しており、ほぼほぼ100%フルタイムです。知的の方の強みで、面接やコミュニケーション面で難しいところがあるが、一度採用していただければ、コツコツ休まず仕事を続けられている。最近、知的と精神が重複する方や、手帳はないけれど、知的とメンタル面に不安を抱える方が増えている。コロナ禍で入社が遅れたり、仕事が順調にいかず、結果精神科に通院して退職。以前快活だったが、コミュニケーション出来ないくらいまで落ち込んでしまった。あおぞらと短時間就労でまずは1時間からで週2日活動センターかなえさんで清掃の仕事を始めて給料もいただけるようになった。

地域活動支援センター利用者も就労の力はあるけれど続けられない方、のぞみの家さんで清掃作業行い、今後の契約に向けて話進めている。

就労の力はあるけれど、なかなか地域に出ていくことができない。力があるからこそ「なんで自分はこうなのか」と泥沼にはまってしまうパターンが多く見受けられる。

就労後、精神面、メンタル面で落ち込んでしまうケースが多いが、障害をもたない人も同じかもしれない。

栗城委員：高齢化はバオバブさんと同じ、16歳～70歳、B型利用者も高齢化してきている。特養と連携して解決を計りたい。

小田部委員：進路担当をしている。時代が変わってきている。学びを続けていかないと、時代が変わっていく。生徒の方も学び続けて行って欲しい。卒業してグループホームに入る人もいる。働く力はあるが、続ける力は別。考え方により、転職もありだと思っている。学校へ見学に来ていただきたい。

事務局：今日出た課題をもとに今後の就労部会を運営して行きたい。